# 4 村山大島紬の伝統を受け継ぐために

村山大島紬は、多くの人たちの手を経て生産され、地域の産業として根付いていきました。こうして育まれた技術は複雑なため、一度失われてしまうと、復元することができない工程もあります。生活様式の変化などによって、織物産業を支えてきた担い手が全国的に不足し、村山大島紬もその存続が危ぶまれています。

瑞穂町では、現在、村山大島紬に携わってきた職人や技術者の方々によって、村山大島紬伝承会が作られています。町の伝統的工芸品である村山大島紬を後世に伝えることを目的とし、機織り体験や染色体験などの指導を通じて、織りや染めの技術を小学生から大人まで広く伝える活動をしています。

織物が盛んだった時代には、織物の上達や商売繁盛を願う信仰が広まっていました。箱根ケ崎の狭山神社の境内には、機神社の石の祠があり、天雅日女命、棚機姫神、栲機千々姫命をおまつりしています。江戸時代の終わり頃、箱根ケ崎で箱根縞を織る人が、現在のあきる野市伊奈に機神様をまつる宮があると聞き、創建したのがはじまりといわれています。現在の祠は、昭和37年（1962）に建てられています。長いあいだ織物に関わる人々の信仰を集め、毎年4月26日の縁日に行われた祭礼には、多くの参詣がありました。現在この祭礼は、村山大島紬伝承会を中心として行われています。

**村山大島紬 生地見本**

瑞穂町や武蔵村山市などで織られていた生地の見本。技術が最も進歩した1960年代から70年代にかけてのもの。

**機神社祭礼**

**機神社芳名簿**

1960年から70年代にかけての祭礼参拝者の記録。